

SDGsの実践を通じた人材確保モデルの考案・ 空室の活用を通じたSDGsの実践

団体名●渡邊ゼミナール(2年生・3年生)／代表者名●渡邊和道(経済学部経済学科・准教授)

はじめに

「石川県中小企業家同友会との企業価値共創事業」について、渡邊ゼミでは、2年生が持続可能な開発目標であるSDGsの実践を通じた人材確保モデルを考案することをテーマに、3年生が空室の活用を通じたSDGsの実践をテーマに、それぞれインターシップを実施した。

活動内容

【2年生】

石川県下で鉄工業を営む株式会社炭澤鉄工と連携して事業を実施した。1日目は、畝田本社において工場を視察した後、炭澤鉄工の社員とともに解決すべき課題についてのディスカッションを行った。2日目は、炭澤鉄工示野工場において、工場の視察とグループワークを実施した。SDGsの17の目標のうち、地元人材の確保に結び付くものを選択し、達成に向けた具体的な取り組みを検討した。3日目は、SDGsの目標を達成するための実践的取り組みが、人材の確保をはじめとする企業の持続可能性を高める好循環を生むことを示すモデルを作成し、報告した。



【3年生】

野々市市を中心に不動産事業を手掛けている株式会社絹川商事と連携して事業を実施した。1日目は、絹川商事が管理する物件の空室を視察し、部屋を改装することによってどのような価値が付加されるのかについて考察した。2日目は、グループワークと報告会を実施した。SDGsの17の目標のうち、空室の

活用を通じて達成できるものを選択し、達成に向けた具体的なプランを、絹川商事の若手社員とともに考案した。



成果、結果の考察

【2年生】

人材の確保は企業の持続可能性に直結する問題であり、中小企業にとって、地域に関する造詣の深い地元出身者や、技術技能の継承者として期待される若者を人材として確保し、育成していくことが極めて重要である。企業は持続的な発展を目指す存在であることから、企業活動は本来的に「持続可能な開発目標」であるSDGsと高い親和性を有するものであるとの結論に至った。

【3年生】

SDGsの目標1「貧困をなくそう」、目標4「質の高い教育をみんなに」、目標12「つくる責任つかう責任」を、不動産事業の展開と結び付けて考えるモデルを提案することができた。

今後の課題、展望

中小企業がSDGsを実践する際の課題として、実践と収益を両立させることが挙げられる。今回の活動を通じてモデルを提示することはできたが、今後は収益性を加味したより精緻な方法論を検討していくことが求められる。